首相の進退

7月20日に投開票された参議院選挙の結果、自民・公明与党が大敗し、与党議席が参院の過半数を割りました。それから10日も経ったのに、首相の進退問題の結論が出ずにカオス状態が続いています。首相を出している自民党内でも「選挙結果の責任を取って辞めるべき」あるいは「選挙結果は首相一人の責任ではないので辞めなくてよい」と意見が分かれています。それどころか、野党側でも「辞めるべき」「辞めなくて良い」と分かれています。首相官邸前では、野党支持者まで「辞めるな！」という大規模デモを行っていて、こんなことは前代未聞で、ジャーナリズム界では首相辞任・継続への賛否に加えて上記の事態に「不可解」というコメントまで飛び出しています。これでは、一般国民が、政治の先行きをわからなくても当然です。元々「政界の一寸先は闇」という格言もある位ですから、驚かなくても良いのですが、上記の状態を私が少し斜めから眺めると、別の「不可解」が思い浮かんできます。国内および外交において、難問が山積みの状態で、国民の幸せ実現のために政治の舵取りする首相の仕事は命を削る重荷のはずなのに、なぜ現首相はその重荷を背負い続けたがるのか、あるいは、なぜその首相に代わって自分が重荷を背負いたがる議員がいるのでしょうか？その重荷に見合った何か得る物があるのでしょうか？(小倉志郎)